

2. 広島市の現況

(1) 地域の概要

広島市は広島県西部、瀬戸内海沿岸の中央からやや西よりに位置しています。中国山地を背にしており、山地部が市域面積の3分の2近くを占め、三方から平地部を取り囲んでいます。平地部は、太田川の河口デルタを中心とし、デルタ市街地には6本の河川が流れています。北部に向かっては太田川の本・支流と八幡川沿いに、東部に向かっては、瀬野川沿いに細長く開けています。その他の大部分は、比較的急峻な大小の山が連なる林野でおおわれています。また、南部の広島湾には、多数の島があります。

広島市は、江戸時代から商業活動が活発に行われ、軍都・学都の性格を持った近代都市として発展してきました。しかし、昭和20年(1945年)8月6日、原子爆弾により壊滅的な打撃を受け、多くの人命と町を失いましたが、戦後のめざましい復興により、現在では、人口約113万人を有す、中国・四国地方の経済、文化、行政の中心である中枢都市として発展を続けています。

(2) 高齢者、身体障害者の状況

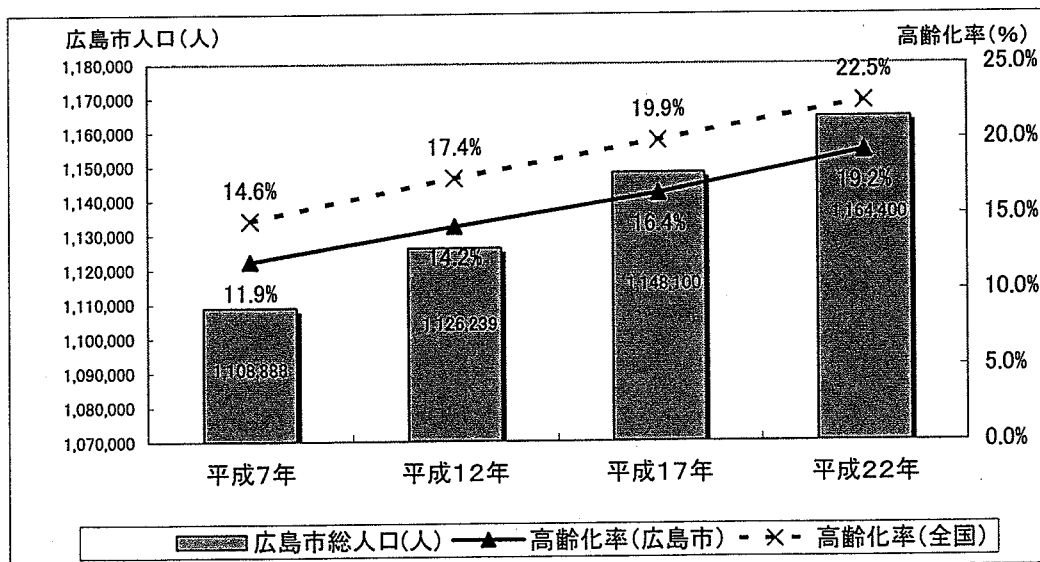
全国的な少子高齢化の中、広島市においてもその傾向は同様であり、人口の高齢化は急速に進んでいます。本市全域の総人口に対する高齢者数(65歳以上の人口)の割合である高齢化率を見ると、平成12年(2000年)では14.2%を占めています。

また、平成22年(2010年)には、総人口116.4万人に対して、高齢化率は19.2%を占めると推測されています。

広島市の高齢化率(65歳以上の人口割合)の推移

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)
総人口(人)	1,108,888	1,126,239	1,148,100	1,164,400
65歳以上(人)	131,840	160,181	188,100	224,000
高齢化率	11.9%	14.2%	16.4%	19.2%
高齢化率(全国)	14.6%	17.4%	19.9%	22.5%

(数値データは国勢調査による。平成17年(2005年)及び平成22年(2010年)は推計値)
※平成17年、22年の推計値に、湯来町との合併分は含んでいません。



広島市の身体障害者数は、平成16年（2004年）3月現在で、34,715人（対総人口比率：3.09%）となっています。また、身体障害者数は年々増加傾向にあり、毎年約3%程度増加しています。

身体障害者数を年齢別に比較すると、65歳以上の高齢者が著しく増加しており、今後の身体障害者の著しい高齢化が予測されます。

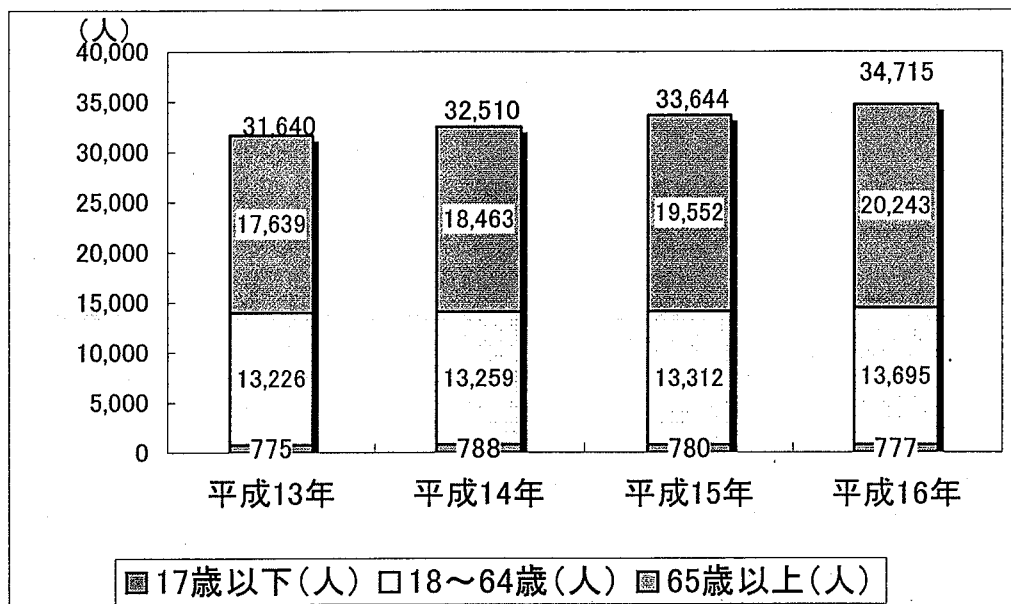
障害の等級別内訳をみると、重度障害者の割合が一番高く、毎年約4%程度増加しています。

障害別では、肢体不自由者と内部障害者の割合が高く、また伸率も顕著となっています。

年齢階層別身体障害者人口推移

	平成13年 (2001年)	平成14年 (2002年)	平成15年 (2003年)	平成16年 (2004年)
総数(人)	31,640	32,510	33,644	34,715
17歳以下(人)	775	788	780	777
18～64歳(人)	13,226	13,259	13,312	13,695
65歳以上(人)	17,639	18,463	19,552	20,243

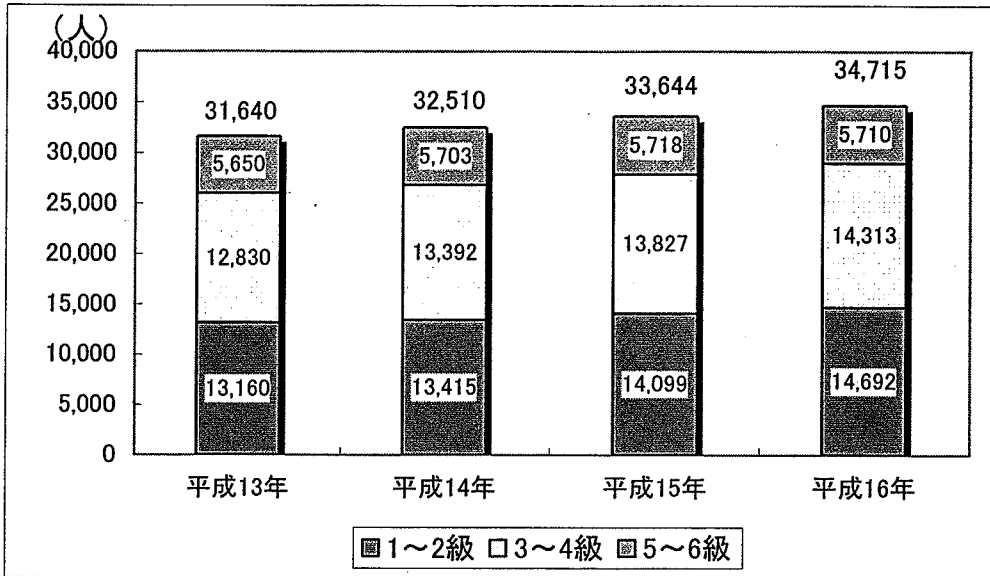
(資料は広島市社会局調べ。)



等級別身体障害者人口推移

	平成13年 (2001年)	平成14年 (2002年)	平成15年 (2003年)	平成16年 (2004年)
総数(人)	31,640	32,510	33,644	34,715
1～2級	13,160	13,415	14,099	14,692
3～4級	12,830	13,392	13,827	14,313
5～6級	5,650	5,703	5,718	5,710

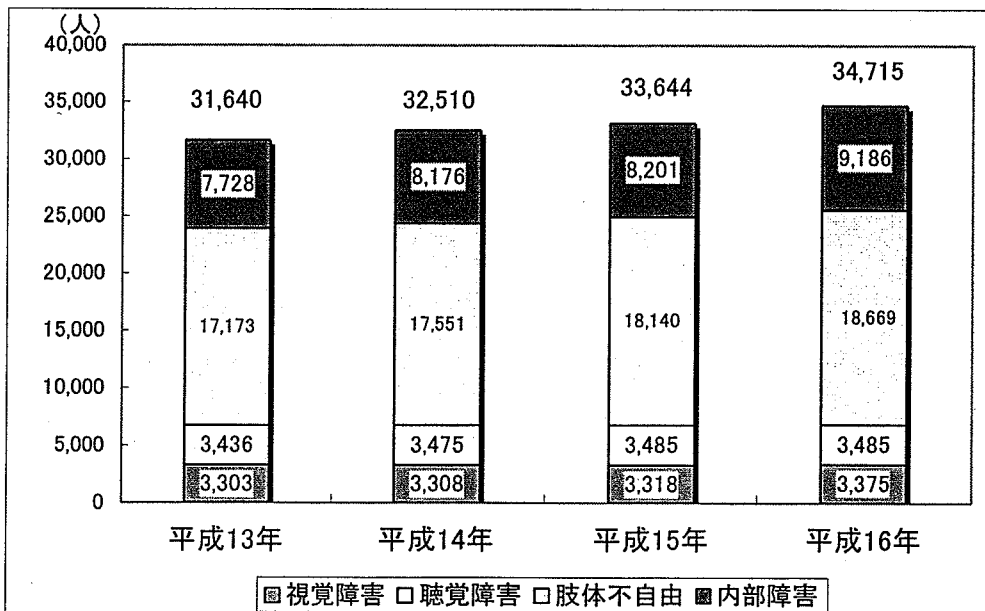
(資料は広島市社会局調べ。)



障害別身体障害者人口推移

	平成13年 (2001年)	平成14年 (2002年)	平成15年 (2003年)	平成16年 (2004年)
総数(人)	31,640	32,510	33,644	34,715
視覚障害	3,303	3,308	3,318	3,375
聴覚障害	3,436	3,475	3,485	3,485
肢体不自由	17,173	17,551	18,140	18,669
内部障害	7,728	8,176	8,201	9,186

(資料は広島市社会局調べ。)



(3) 公共交通機関の現況

ア. 交通事情

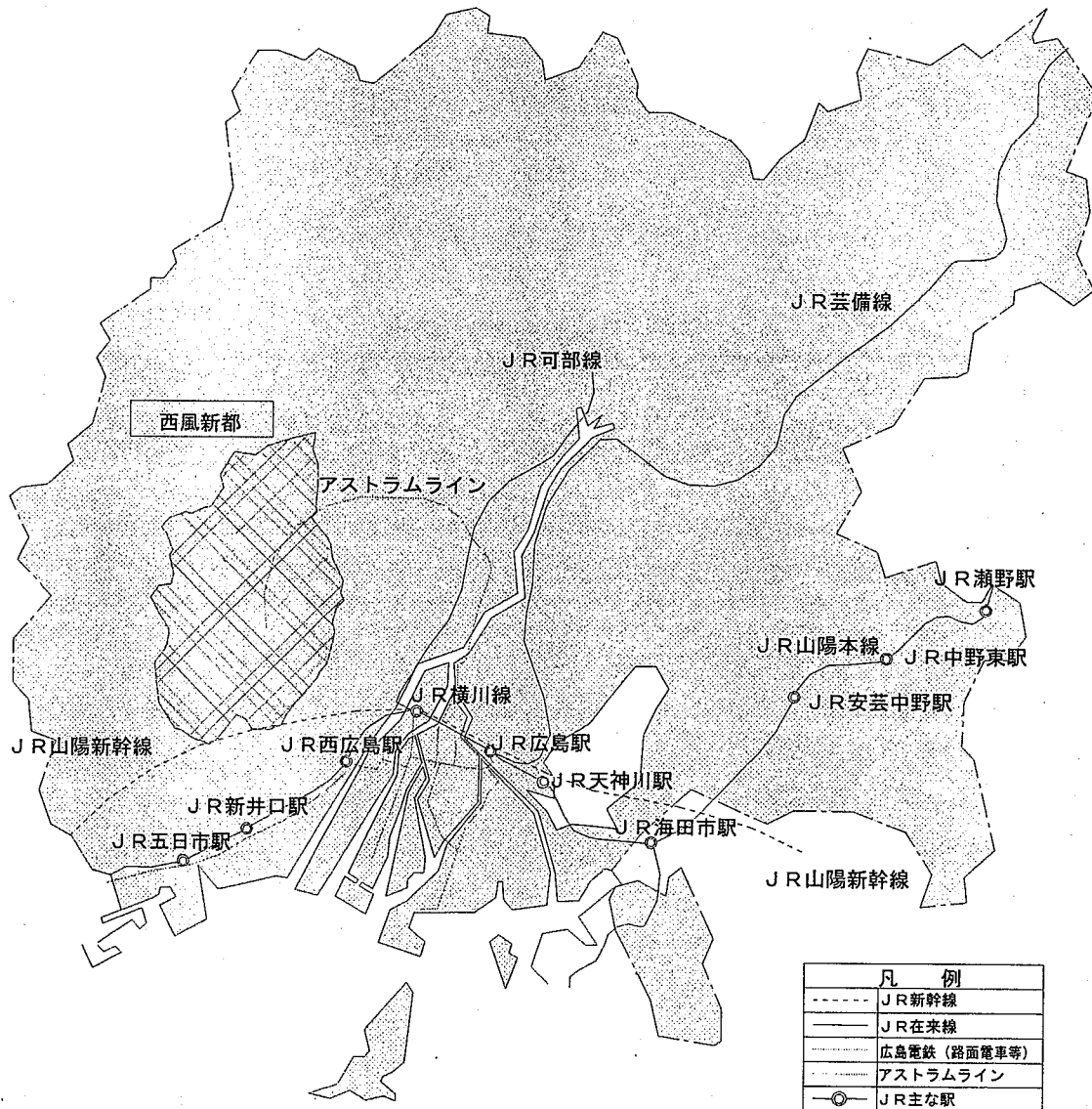
広島市域の都市交通は、広域交通を担うJR（鉄道）のほか、第三セクターが運営するアストラムライン（新交通システム）、民間企業が運営する路面電車やバスなど様々な公共交通機関により形成されています。

このうち、鉄道は、広島駅から東西方向に伸びるJR山陽新幹線及び山陽本線を中心にネットワークが形成されています。

路面電車は、デルタ市街地にネットワークが形成されており、広島湾の西岸を郊外に伸びる宮島線との直通運行も行われています。運行形態は7系統、総営業キロは19.0kmで、その間に約60ヶ所の電停があり、電停間の距離は約340mと高密度の配置となっています。

バスは、都心から郊外への放射型の路線網を形成しています。バスの走行を円滑にするため、バス専用レーンの設置などのバス優先対策を実施しています。

アストラムライン（新交通システム）は、都心の中区紙屋町から市北西部地域の拠点である西風新都までの18.4kmで運行しています。



公共交通機関の路線網

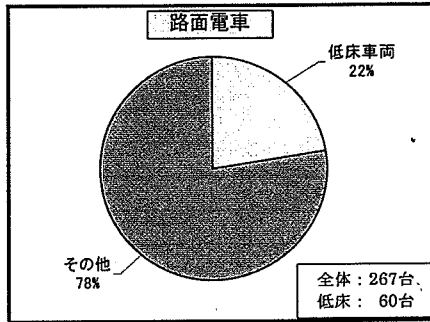
イ. 低床車両の導入状況

現在の広島市域の路面電車・バスへの低床車両の導入比率は、路面電車で約22%、バスで約12%であり、充分とは言えない状況です。

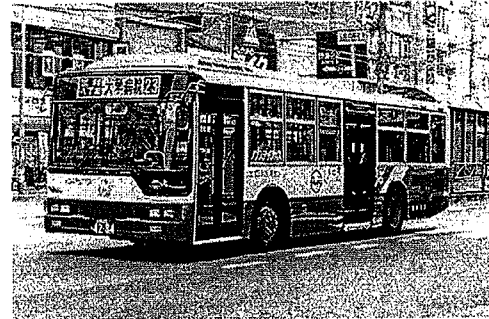
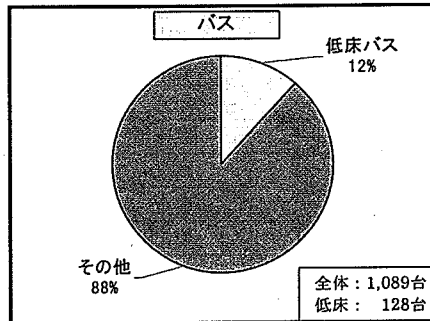
低床車両の導入状況

区分	全体	低床式	その他
路面電車	267台 (123編成)	60台 (12編成)	207台 (111編成)
バス	1,089台	128台 (ノンステップ・30台 ワンステップ・96台 リフト付き・2台)	961台

(資料は広島市道路交通局調べ。平成16年(2004年)3月末時点)



低床路面電車【グリーンムーバー】



低床バス【ノンステップバス】

ウ. 旅客施設の現況

交通バリアフリー法の施行に伴い示された「移動円滑化の促進に関する基本方針」では、1日当たりの平均的な利用者数が5,000人程度以上ある旅客施設*については、平成22年(2010年)までにバリアフリー化を図ることが目標とされています。

広島市内には、JR各駅や路面電車の停留所、アストラムラインの駅など、130余りの旅客施設がありますが、次ページの一覧表のとおり、現在34施設で1日当たり5,000人以上の利用者があります。

これらの施設のなかで、バリアフリー化の指標の一つとなる昇降施設(エレベーター、エスカレーター等)の整備状況を高低差が5m以上ある施設について見ると、平成6年(1994年)8月に開業したアストラムライン各駅や、平成9年(1997年)3月に改修されたJR瀬野駅、平成16年(2004年)3月に開業したJR天神川駅及び平成17年(2005年)3月にバリアフリー化整備が図られたJR広島駅以外は未整備となっています。

※ 1日の利用者数が5,000人未満でも、次の条件では、交通バリアフリー法の対象となる施設もあります。

- (7) 当該市町村の高齢化率等の地域状況からみて、高齢者、身体障害者などの方々の利用数が、1日の利用者数5,000人以上の旅客施設と同程度と認められる場合
- (4) 徒歩圏内に、相当数の高齢者、身体障害者などの方々が利用する施設が存在し、移動円滑化事業を優先的に実施する必要が特に高いと認められる場合

1日当たりの利用者が5,000人以上の旅客施設の現況(乗客数:平成15年度実績)

区分	路線名	駅名等	乗降客数 (人/日)	EV,ES の有無	備考
西日本旅客鉄道(株)	JR山陽本線	瀬野	5,664	○	
		中野東	6,222	×	
		安芸中野	5,816	×	
		天神川	10,496	○	
		広島	140,144	◎	
		横川	30,002	×	
		西広島	18,848	△	駅周辺整備計画に併せ検討
		新井口	14,490	×	
		五日市	24,150	×	
		JR呉線	矢野	13,476	△
	JR可部線	下祇園	6,472	—	
大町		10,192	△	駅改札は2Fにあり、EVはバスターミナル側	
可部		7,562	—		
広島電鉄(株)	宮島線	古江	5,672	—	
		商工センター入口	7,340	—	
		広電五日市	7,710	—	
		楽々園	9,525	—	
	市内線(軌道)	広島駅	32,044	—	※(平成12年度値)
		胡町	5,734	—	同上
		八丁堀	13,947	—	同上
		立町	7,279	—	同上
		紙屋町東	8,797	—	同上
		紙屋町西	18,142	—	同上
		十日市町	5,661	—	同上
		土橋	6,537	—	同上
		広電西広島(己斐)	19,721	—	同上
		本通	8,065	—	同上
広島高速交通(株)	アストラムライン (新交通システム)	本通	17,347	○	
		県庁前	14,508	○	
		中筋	5,987	○	
		大町	9,629	○	
		安東	5,451	○	
バスターミナル	広島バスセンター	42,674	△	※(平成11年度値)	
旅客船ターミナル	宇品港ターミナル	9,982	—	同上	
合計			34施設		

- :高低差5m以上の駅等で、エレベーター、エスカレーターの設定がある
- ×:高低差5m以上の駅等で、エレベーター、エスカレーターの設定がない
- △:高低差5m以上の駅等で、エレベーター、エスカレーターの設定(予定等含む)が一部ある
- :平面駅

前項のバリアフリー化を図るべき旅客施設の中でも、高低差が5m以上あり、バリアフリー化されたエレベーター、エスカレーター等のない施設は早期にバリアフリー化が望まれており、JR山陽本線の中野東駅、安芸中野駅、横川駅、西広島駅、新井口駅、五日市駅の6駅がこれに該当します。

この6施設について、さらに周辺施設の分布状況や交通結節点としての機能についての調査を行った結果は以下のとおりで、JR横川駅は、乗降客数、公共公益施設の分布状況、交通結節点としての役割の重要性など、整備効果が高いと考えられます。

主要各駅の公共公益施設の分布状況及び交通結節機能状況

駅名	乗降客数 (人/日)	公共公益施設の分布状況 *1							交通結節機能状況
		A	B	C	D	E	F	合計	
中野東	6,222	0	3	1	0	0	4	8	JR *2
安芸中野	5,816	1	2	1	2	0	6	12	JR
横川	30,002	1	2	3	3	0	15	24	JR・路面・バス
西広島	18,848	2	7	1	1	0	12	23	JR・路面・バス
新井口	14,490	0	1	2	3	0	13	19	JR・路面・バス
五日市	24,150	1	2	2	3	0	12	20	JR・路面・バス

*1) A～Fは下記表の区分を示す。

*2) JR: JR在来線、電車: 路面電車

* 公共公益施設の選定基準

公共公益施設を選定するにあたっては、ハートビル法などの国の基準や、高齢者、身体障害者などの方々の利用状況などを考慮し、以下のような選定基準で選定を行いました。

- ・旅客施設から概ね1km圏内に立地している施設
- ・旅客施設を經由して広域的に利用される施設
- ・官公庁や福祉施設などの公共施設

また、対象とする施設の区分は以下のとおりとしました。

区分	対象施設の例	備考
A 官公庁施設	官公庁(市役所、区役所、ハローワーク等)	官公庁は、一般市民の利用が見込まれる施設のみを対象とする。
B 社会福祉施設	老人福祉施設、児童福祉施設、身体障害者更生援護施設等	
C 医療施設	病院(一般診療所、歯科診療所は除く)	病院の定義(病床数20以上)は、医療法の分類による。
D 教育文化施設、コンベンション施設、スポーツ・レクリエーション施設	公民館、図書館、博物館、映画館、ホール、会議施設、展示施設、体育館等	
E 宿泊施設	ホテル、旅館等	宿泊施設は客室数50室以上を対象とする。
F 商業施設、銀行・郵便局	大型小売店(百貨店、スーパー)、銀行、郵便局等(本店等、相当数の利用者を見込むものに限る)	百貨店、スーパーの定義は経済産業省の分類による。